

役割演技

役割演技での児童の思いや考えを生かした 道徳科の授業

児童が自分たちで自発的に演じ、「問い」を解決するための役割演技

※胸に、登場人物のカードをかけ、台詞を言ったり動作をしたりしながらイメージを広げる。
◎役割演技に入る時は、児童に場面設定や直前の登場人物の気持ちをイメージさせる。

「わたしたちもしごとがしたい」1・2年より

(児童：子供 指導者：町長さん)

指導者：ありがとうございました。
ごほうびです。
うけとってください。

お礼の品を受け取る演技をする。



児童：ごほうびはいりません。
だって、みんなのために
がんばりたいからです。

動作化した後にどんな気持ちだったかをインタビュー



児童たちから出た子供の言葉

ありがとうございます。
ごほうびをもらわなくても、
ぼくたちはやります。

もっとがんばっておとなを
らくにします。

ありがとう。



おたんじょう日おめでとう。
プレゼントをどうぞ。

どうでしたか？

おたんじょう日おめでとうって
言ってもらってうれしかったです。



立場を逆転して
動作化を行う。



「げんきにごあいさつ」（日常生活の指導の中で道徳的価値を目指した授業）

1・2・4・6・年うみ学級

（授業後の協議会の中から）

- 役割演技がよい挨拶の場合、悪い挨拶の場合と2つ行い、比較させて考えさせたので、児童はどんな挨拶をするとういのか理解できた。
- 児童は台詞だけではなく、その時に思ったことや、相手が喜ぶように一言添えるなどして、役になりきって動作化をしていた。
- 立場を逆転して（交代して）動作化を行うことにより、両方の気持ちが分かる。
- 動作化をする人は、体感したり経験を語ったりできる。見ている側は、体現してくれるので気持ちや状況が分かる。
- 役割演技をすることで『挨拶をするとうれしい』という価値に気づくことができた。